

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

講師紹介は、開講式のページに記載

〈講義概要〉

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、前期の中間総括を行った。

まず、これまでの授業のコミュニケーションペーパーのコメントの中から数名ずつの意見を一部抜粋したものを配布し、反畑氏がそのコメントに対し意見を述べた。学生は、他大学や他学年の学生の考えや表現、またそれに対する反畑氏の意見も聞くことで、各授業の理解をより深めながら、学習への意欲を強くした。同様に、学生がコミュニケーションペーパーに記入した質問に対する各講師の回答も配布し、反畑氏が解説を加えた。

最後には、ビジネス・プロデューサーについて講義を行い、クリエイティブな面でのプロデュース能力とビジネス面でのプロデュース能力の両方の資質が求められるようになり、今後はビジネス・プロデューサーが重要な位置を占めるようになることを指摘した。



〈受講生の感想〉

今までのコミュニケーションペーパーから、講義前半を振り返り、自分の中でも少し整理できました。自分の感想や意見が抜粋されていて、嬉しかったです。あらためて、今まで受けてきたことを思い返すと、本当にぜいたくな講義を受けさせてもらっているな、と感じました。音楽関連5団体さん、各講師の方々、立命館大学さんなど様々な方に感謝しながら、後半も多くの知識を吸収できるように励みたいです。

京都女子大学短期大学・2回生

今まで、色々なジャンルの先生のお話を聞きましたが、私は、現状を知ること、正しいことを知ることが大切なんだと思いました。何も知らなければ、考えるきっかけにもならないし、前に進むことができません。知ることによって新たな知識が増えて、さらに知りたいと思い自分で動き、社会が動くのではないかと思いました。

京都女子大学・現代社会学部・2回生

反畑先生の総括でクリエイティブな面とビジネス面がとても大事だと言っていて、この講義を受けるまでの自分はエンターテイメント=夢のある創造的なものとか考えていませんでした。エンターテイメントがビジネスということをしっかり理解することが出来たのは、この講義のおかげだと思っています。

立命館大学・文学部・3回生

それぞれの先生のお話を思い出してみても感じた事なのですが、皆さんが違ったエンターテイメント分野でお仕事をされていた方だったのですが根底には皆さん共通して「人を感動させたい！」という考えを抱いていらっしゃるのだなあと感じました。こんな不況な時代だからこそ、よりエンターテイメントが求められると思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

中西健夫先生のご回答の“何を提起するにせよ、自分が納得できなければ、その問題には取り組まないというポリシーがあります。”という言葉が印象に残りました。何となくやるのではなく、納得できることにエネルギーをそそぐということをしることでプロフェッショナルな仕事ができるのだと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

全く同じ講義を受けているのに、人によって180°意見が違っていたりする。このように全く考えの違う人たちがエンターテイメントという場で一体となるから、エンターテイメントはなくならないだろうと、強く思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

私はまだ1回生なので、こういう機会先輩や他学部の人々の感想・意見を聞くことができ、すごく役立つなと思いました。やっぱり言葉のインスピレーションとか、引き出しが、まだ少ないので、たくさんの意見にふれて、吸収できるものがたくさんあったと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

エンターテイメント企業には、クリエイティブ・プロデューサーのような、専門性や独創性を一番大切にしている方が重要だと思っていましたが、ビジネスプロデューサーの必要性を知りました。権利やマーケティング面での知識がエンターテイメント産業にとって大切なのだと驚きました。

同志社大学・文学部・3回生

今までの授業を振り返りつつ他の人がその授業をどのような思いで受けたのかを知った。他人の意見を聴くことによって新しい考え方を学ぶことができたし、授業内容が一層濃くなった。このように、他人と意見交換することもある意味エンターテイメントなのではないか。(気持ちが変わったりする、という面で)

立命館大学・産業社会学部・1回生

自分とは違う、他者の意見を聞くことで、講師の方達から受けた物と違う刺激を受け、理解が深まったように感じました。

立命館大学・映像学部・3回生

今日の先生のお話はとても共感できるものでした。なぜなら、私は以前バンドを組んでいて、そのときに良い音楽を作るだけじゃ何も始まらないということを感じたからです。もちろん良い音楽を作った上で様々なことが展開されていくわけですが、やはり自分たちをどう売り出していくかという方法を身に付けることも重要だと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生